

ゲリラ豪雨災害の備えは

防災計画に基づき職員を動員する



諸木 悦朗 議員

諸木議員

本町は、4月30日に一時間148ミリという猛烈な雨が観測されている。三文字、益丸、横瀬・大丸地区など、448号線並びに220号線も冠水して大変であった。町としての災害に対する備えは。

職員動員し防止に努める

町長

災害に対しては、地域防災計画に基づき、職員を動員し、情報の収集や災害発生防止に努めている。



塩入川の氾濫により冠水した水田地帯

被災地の復旧状況は

諸木議員

今回被害に遭った所の復旧状況はどうか。

現地調査を終えて着手する

町長

建設課関係では、町道39ヶ所、準用河川2ヶ所、

急傾斜地一ヶ所。耕地課関係は、農地、農道、水路等で17ヶ所である。緊急を要する所は早急に応急措置を行い、県の現地調査を終えて随時着手する予定である。

インフラ整備の必要性は

諸木議員

今回の雨量で、畑の水や、家の雨水等が道路を通過して集中し、坂道を下っていく様に住宅街に流れ込んで被害がでている。排水能力がない排水路が見受けられる。また、夜間に災害が起きた時の避難道路の照明が少ない。更なるインフラ整備が必要ではないか。

周知して県に要望を

町長

土砂等が側溝に流れ込

まない様に周知していく。また、県内で事業を進めていく上で整備については要望を続けていきたい。



集中豪雨により崩壊した法面

農地中間管理事業の現状は

諸木議員

農地中間管理事業の取り組みと進捗状況を問う。

達成率は県内トップ

町長

農林振興課と農業委員会がタイアップした形での推進体制を取っており、

今年度は集積目標160ヘクタールであるが、現在のところ達成率が91.9%となっている。

問題点はなかったのか

諸木議員

職員が、土日返上して非常に頑張っている。県内でもトップクラスと思われるが、推進する上で問題点はなかったのか。

未相続物件が多い

町長

農林振興課と農業委員会をワンフロア化にする事で、スピーディーかつ正確な事務処理が可能になった。問題点としたら、未相続物件であるが、少しでも解消につながる様に期待し努力する。

新規就農者の方策は

諸木議員

ここ数年の新規就農者の本町の推移はどうなっているのか。また、本町において新規就農者を増

やすための方策は考えていないのか。

二つの支援策で

町長

5年間の新規就農者の総数は23名である。また、青年就農給付金と大崎町新規就農者支援事業の二つの事業で支援を行っている。

土地の優遇は

諸木議員

二つの支援策は理解するが、さらにハード面での土地の優遇は考えられないか。

支援体制を考えていく

町長

新規就農者が施設経営者の下で就農する時の支援体制というのも構築してもう一回考える必要があると思う。